

1 学校教育目標

1 よく考え自ら学ぶ生徒	2 正しく判断し実行する人
3 礼儀正しく情操豊かな人	4 心身ともに健康な人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・地域に信頼され、入学したいと思う学校、入学してよかったと思う学校、卒業してもよかったと思う学校 ○ 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する学校 ○ 果敢に挑戦し、未来を切り拓く資質・能力を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習、学校行事、部活動等に主体的・積極的に取り組む生徒 ○ 一人一人が湊江中の代表としての自覚をもち、他を思いやる心をもち、互いに高め合う生徒 ○ 明るく、元気で、前向きに学校生活をおくる生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協調と協働を根底に置き、情熱と使命感に燃える教師 ○ わかる授業、魅力ある授業を追求する教師 ○ あきらめない生徒指導に徹し、信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>
 落ち着いた学校生活を送っている。500名を超える生徒と全教職員が一体となって取り組む行事が学校生活の全般に良い影響を与えている。落ち着いた雰囲気で行われ、学習と行事等にメリハリをつけた学校生活を送っている。知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に向けて邁進している。

<前年度の成果と課題>
 成果： 本校の魅力ある教育活動である充実した学校行事、さらに教職員が一丸となって組織的に教育活動・生徒指導にあたる体制等、長い伝統に支えられた本校の特色を昨年度も継続することができた。生徒に明確な課題を与え、生徒自らがミーティングにより主体的に全力で様々な活動に参画することで、感動体験等の大きな成果をあげている。
 さらに、生徒の学力向上に向けて新たな取組が始まり、教員の意識も向上してきている。少しずつ成果も表れているところであり、この流れをさらにしっかりと定着させ、文武両道の道筋をつくりあげる基礎固めが進んでいる。

課題： 新学習指導要領完全実施前年度である本年度は、その準備を確実に行うことが最大の課題である。研修体制を強化するとともに共通実践項目を明確にし、生徒にどのような力をつけるか、どのような授業を行うか等について理解を深め、課題解決に向けて万全を期す。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	秩序と活力のある学校生活の構築	○	○	○	○	○
3	小中連携活動の充実と教員の授業力向上	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標正答率・通過率)		実施結果 (正答率・通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
「授業が楽しい」「授業がわかりやすい」という生徒の増加 令和3年度区学力調査の結果		授業が楽しい、わかりやすいという生徒の割合 80% 年度末到達度確認テスト正答率 60% 令和3年度区学力調査通過率 60%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善・授業力向上	全教科担当	年間	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が年2回、指導案を全教員に配布して公開授業を行う。 授業後に管理職等と共に授業改善に向けた協議の場を設ける。 小中連携活動の中で授業公開・研究授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業アンケート年間3回 	<ul style="list-style-type: none"> 6項目のアンケートすべてについて、肯定的回答の上昇(80%以上) 		自己評価の際に記入	
2 継続	放課後補充	全学年 全生徒 英語・数学	毎日 ※行事 重点取 組期間 を除く	【指導体制】 学年担当教員 【取組内容、ねらい・目的】 プリント教材等を使い、生徒全員に学習内容の定着を図る。 各教科で確認テストを実施する。 【使用教材】 プリント教材(英、数)	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で進度等を考慮して確認テストを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストで目標点を超えない生徒に家庭学習課題を与える 上記学習課題提出率100% 		自己評価の際に記入	
3 新規	I C T 機器の活用	全学年 全生徒 5教科中心	年間	<ul style="list-style-type: none"> 5教科を中心に、 ①教員がI C T機器を活用して授業を行う。 ②生徒のI C T機器使用場面を広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の授業アンケート ②自己申告面接 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的回答80%以上 ②生徒に使用させる教員の割合上昇 			

4 継続	サマースクール (基礎コース)	全学年 国語・数学・英語 目標値未 満 各学年約 30名程度 を募集	夏休み 期間中 の7日 各日50 分	【指導体制】 教科担任1名+学年サ ポートメンバー1名 【取組内容、ねらい・目的】 当該年度の前半期の 内容でつまずきおよ び学力調査の目標正 答率が高い問題で、本 校の生徒の達成率が 低い問題の未定着を 解消する。T1が問題 の説明を行い、T2が 机間指導をすること で解消を図る。 【使用教材】プリント教材	サマースク ール終了後、確 認テストおよ び定期テスト で確認	夏休み終了後 の確認テスト で全員の正答 率を20%の上 昇 できなかった 場合、冬休みの 宿題でもう一 度勉強し直す。		自己評価の際に記入	
5 継続	家庭学習 の習慣化	全学年 全員 英・数	各教科 週1回 3か月 間	【取組内容、ねらい・目的】 毎日2ページの家庭 学習ノートを提出。 ・週2回分の学習内容を区 学力調査の正答率の低い 問題が定着するような内 容に限定する。	宿題提出状況 調査	全学年宿題提 出率を80%に する			
6 継続	1年間の 総復習	1, 2年 全員 5教科	2月 ～4月	【取組内容・ねらい・目的】 ・復習確認テスト等を行 い、学習内容の定着度を確 認し、定着度の低い問題を 授業で解説し、春休みの宿 題で確認	宿題提出状況 調査	全員の宿題提 出率を100%			

重点的な取組事項－2		秩序と活力のある学校生活の構築		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
成就感・達成感のある学校生活を堅持し、学校評価における肯定的評価90%以上を維持する。	「学校が楽しい」と回答する生徒の割合90%以上		自己評価の際に記入	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
達成感のある行事の推進	90%以上の生徒が各行事での達成感を得る。	全校生徒から自己肯定感を高めることができるよう一人一役で役割を与える。			
人権に配慮した個別指導	いじめ質問紙調査(年3回)、個別面談(年3回)を実施する。	・得た情報をもとに、即時組織対応する。		自己評価の際に記入	
不登校生徒への対応	不登校出現率6%以内にする。	・教育相談部会で個に応じた対応を検討し指導に生かし組織的に対応する。			

重点的な取組事項－3 小中連携活動の充実と教員の授業力向上					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中教員の合同研修会や研究授業により、授業規律・新学習指導要領にそった授業等を含む教育活動委ついて理解を深め、授業力・生徒指導力の向上につなげる。		年間6回、全教員が参加して小中連携活動を実施 小中1回ずつ指導案検討・研究授業・研究協議を実施		自己評価の際に記入	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
合同研修会と研究授業	年間計画により合同研修会を2回、指導案検討・研究授業を4回実施	・小中の管理職と小中連携担当者により連絡・調整を前年度に行い年間計画により実施 ・講師を招いての教科指導法や新学習指導要領等の研修も実施		自己評価の際に記入	
指導案の共通化	研究授業に際し、連携の視点等の共通項目を設定する	・共通項目について、前年度中に検討し、今年度より指導案に設定する ・すべての研究授業で上記の共通項目を入れた指導案を作成・配布する			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）